

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	海老名市立わかば学園		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 14日 ～ 2025年 2月 15日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	176 (回答者数)	134
○従業者評価実施期間	2025年 2月 17日 ～ 2025年 2月 26日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5 (回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・保護者とやりとりをする機会を多く設けている	・親子登園をお願いしており、保護者担当職員の配置することや送り迎えの機会を活用し連携を図るようにしている。 ・話を聞く担当を固定し話をしやすいようにしている。一方で、多くの職員を配置し、話しやすい相手を選択しやすいようにもしている。	・お子さんの活動中に保護者と話ができるよう、職員配置等を検討していく。また、活動日以外に面談できる体制を整え、家族支援の充実を図る。
2	・児童発達支援センターと一体化していることもあり、活動スペースが十分に確保されている	児童発達支援センターとの共有スペースに体育室があるため、身体を動かす活動や雨天時プログラムの際に活用している。また、夏には屋上プールも設置されており活動内容を広げやすい。会館ロビーには自動販売機も設置されており、買い物体験を都度取り入れるようにしている。	・スペースは確保されているが、お子さんの状況に合わせてもう少し構造化できると良い。活動に参加しにく、もしくは集団に入りにくいお子さんに対応するスペースを確保できるとなお良い。
3	・幼児期から利用者のことを知っている職員が担当している	・お子さんが安心して放課後等ディサービスの活動に参加できるように、特に移行期は、児童発達支援センターで担当していた職員がグループのフォローに入り、対応の引継ぎを行うようにしている。	・放課後等ディサービスの担当者が児童発達支援センターの療育に入るなど、受け入れ前にお子さんの様子を把握する機会を作る。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・利用回数が少ない	・児童発達支援からのフォローアップの意味合いもあり、移行時に利用希望の確認をし、希望者全員を受け入れているため、一人当たりが利用できる回数が限られている。	・場所と人員確保に課題があるが、利用定員の変更も視野に入れて検討する必要がある。 ・対象児の絞り込みなど、学園の放課後等ディサービスの役割を明確化していく。
2	・グループ療育のみの提供であり、個別療育を選択することができない	・集団活動に参加しにくいお子さんに対して、場所を分けるなどの対応はしているものの、ご家族や本人のニーズに合う療育を提供できていない場合がある。	・学園の放課後等ディサービスの強みやご利用者のニーズを改めて確認する必要がある。その上で海老名市内において、期待される学園の役割を含めサービス提供の方法を再構築していく。
3	・緊急避難や災害時対応についての説明が不十分	・月1回の活動のため、お子さんを交えての避難訓練は実施しておらず、緊急時や災害時の対応については契約更新時に重要事項説明書を用いて説明するのみとなっている。	・3か所ある避難経路を視覚化して提示するなどの工夫をし、災害時の避難ルートをお子さんと保護者にわかりやすく説明する。 ・放課後等ディサービスの利用者についての法人の安否システムへの登録を検討する。